

# 平成28年度 学校自己評価システムシート ( 県立熊谷高等学校 )

目指す学校像	これからの日本と世界に貢献できる人材を育成する、伝統を重んじ、活力に満ちた進学校
--------	--

重点目標	創立121年目を迎え、今後の10年を見据えた取組を行う。 1 高い志を育成し、第一志望の進路を実現させるため、学力向上に向けた組織的な取組を実践する。 2 本校の特色や魅力を効果的に広報するとともに、県内小中学生と積極的な交流を図る。 3 伝統に培われた教育活動全般(学業・部活動・学校行事)を通じて、人間味のあるリーダーに育てる。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		
年 度 目 標			年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		達成	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策	
1	○国公立大学合格者数増加など進学指導の取組の成果が上がってきているが、平成27年度は国公立大学合格者が112名(現役55名)、難関私立大学合格者は299名(現役129名)だった。「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」指定校として、多角的・総合的な指導を通じて更なる進学実績の向上が期待されている。○平成28年度入学生より進学型単位制を導入した。学年制と単位制が混在しているが、円滑な教育活動を進められるよう取組を進める。	○指導力の向上と、生徒の主体的な学習を促す授業改善の推進	①今年度入学生から進学型単位制を導入し、年次団や教科担当者と連携を図り、きめ細かい学習ガイダンスを行うことで自主的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ②生徒自らが考え、学ぶ授業を展開し、授業を更に活性化させる。 ③生徒の主体的な学習を促す授業改善のため、教員同士による授業公開の実施	①平日に学年+1時間以上学習する生徒が各学年全体の7割を超えたか(早朝、放課後含む)。 ②「生徒による授業アンケート」等で授業中に発言・質問をする生徒の割合が増えたか。 ③授業公開期間中、他の授業を見学した教員の割合	<b>主体的な学習を促す授業改善が緒につきはじめた。</b> ①1年32.1%→31.2%、2年10.1%→14.6%、3年18.5%→69%だった。(5月→12月) ②12月アンケート51.2%(H27 52.5%)だった。真面目に受けているがまだまだ受身の生徒が多い。 ③授業見学シートの提出率61.9%	B	<b>【課題】</b> ○高い志の育成と難関大学合格者数の増加  <b>【改善】</b> ○第一志望実現のため、早い段階で受験意識を高め、学習時間を確保させる。 ○生徒の主体的な学びを取り入れた授業改善を推進する。 ○高大接続を含めた教育改革を見据えた取組を進める。
		○高い志を育成し、第一志望を実現させる進路指導の充実	①1年次の講演会・集会、キャリア教育等を通じて高い志を育成し、3年間を見通した組織的な進路指導により高い進路希望を維持させる。 ②SSH事業で全校生徒へ働きかけるとともに、骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業や国際交流事業等への参加を勧め、学校外の力も活用し生徒の意欲を高めていく。	①現役合格者数が国公立大学70名、うち難関国立大学10名を超えたか。 ②事業参加生徒の意識、意欲についてのアンケート項目の肯定的意見の割合が昨年より上昇したか。	<b>第一志望の実現に向けて引き続き進路指導の充実が必要</b> ①国公立大114(現役62)名の合格(3月23日現在) ②SSHの取組に参加したことで科学技術に対する興味・関心・意欲が増した生徒81%(77%)、科学技術に関する学習に意欲が増した生徒73%(71%)。骨太リーダー育成事業に係る取組(被災地訪問、国際交流事業)に参加した生徒が全校生徒に報告を実施	B	<b>【課題】</b> ○高い志の育成と難関大学合格者数の増加  <b>【改善】</b> ○第一志望実現のため、早い段階で受験意識を高め、学習時間を確保させる。 ○生徒の主体的な学びを取り入れた授業改善を推進する。 ○高大接続を含めた教育改革を見据えた取組を進める。
2	○昨年度ホームページに「赤薨」を新設し、「旬熊」も含めて本校の教育活動の様子を発信し、総アクセス件数が87,000件であった。多様な情報ネットワークを利用し本校の良さを更に積極的にPRする。部活動についても最新情報を随時掲載する必要がある。○保護者や小学校・中学校をはじめとする地域社会と連携し、本校の信頼を一層高めるとともに、本校で学びたいと強く思う中学生を増やす。	○積極的かつ効果的な広聴広報活動	①画像等の情報を迅速にHPに更新するとともに内容の充実をさらに図る。 ②携帯メール一斉送信を有効活用する。 ③マスコミ等へ本校の取組を積極的に情報提供する。	①ホームページの総アクセス件数が9万件を超えたか。 ②携帯メール一斉送信により必要な情報を随時送信したか。 ③マスコミ等で何件本校が取り上げられたか。	<b>昨年度に引き続きHPを広報ツールとして十分活用できた。</b> ①管理職によるブログ「赤薨」には90,000件、HP総数170,000件アクセス数があった。 ②定期的な月1回、緊急の際は随時一斉メールを送信した。 ③埼玉新聞を中心に10件取り上げられた。	A	<b>【課題】</b> ○真の熊谷高校の「良さ」を伝える広聴広報活動  <b>【改善】</b> ○学校説明会や部活動体験等に在校生が積極的に関わることにより、効果的な生徒募集を更に推進する。 ○生徒の自主的なボランティアを推進し、地域とのつながりを強化する。 ○地元小・中学校との連携を更に深める。
		○地域社会との連携推進	①ボランティアを含め、地域行事への参加・協力や小中学校との連携をさらに推進する。 ②学校説明会及び中学生対象の部活動体験を複数回実施し、生徒同士の交流を図る。	①昨年以上に地域行事や小中学校行事への参加・協力ができたか。 ②学校説明会への参加者数が増えたか。部活動体験に多くの中学生が参加したか。	<b>概ね良好である。</b> ①音楽部・吹奏楽部・陸上部・応援団が石原小、大原中と交流、有志が石原小、大原中、富士見中の夏休み学習ボランティアに参加。 ②第1回383組、第2回152組、第3回146組が参加。中学1・2年生対象43組、3年生対象は昨年より減であったが、1・2年生対象は倍増。	B	<b>【課題】</b> ○真の熊谷高校の「良さ」を伝える広聴広報活動  <b>【改善】</b> ○学校説明会や部活動体験等に在校生が積極的に関わることにより、効果的な生徒募集を更に推進する。 ○生徒の自主的なボランティアを推進し、地域とのつながりを強化する。 ○地元小・中学校との連携を更に深める。
3	○「質実剛健」「文武両道」「自由と自治」の校風が学校生活に活力を与え、人間力の形成と向上につながっている。生徒同士の学びあいの場、話し合いや発表の場、活躍の場をさらに増やし、リーダーとしてバランス感覚のある生徒の育成が期待されている。	○「学力」「体力」「良識」の調和のとれた、将来、日本の社会をリードする生徒の育成	①「学業・部活動・学校行事の鼎立」を踏まえ、学業を第一義に部活動や行事の更なる充実に取り組む。 ②社会で活躍する人材を招き、「真のリーダーとは何か」を考えさせる。 ③図書館開館時間の延長、放課後の教室開放等により「学ぶ集団づくり」を推進する。	①生徒が主体的に学校行事や生徒集会を運営したか。全国大会、関東大会に7部以上出場できたか。 ②事後の感想やアンケート結果等で社会で貢献しようとする志を持つ生徒が増えたか。 ③放課後に図書館や教室で学習する生徒の数が増えたか。	<b>生徒が「三本の矢(学業・部活動・学校行事)」にしっかり取り組んだ。</b> ①インターハイに3部、関東大会に5部が出場。 ②「生き生き仕事人」のアンケート結果より、高校時代に何をすべきかわかった52%(41%)、将来を考えるきっかけとなった36%(48%)。 ③放課後の図書館利用者数1学期平均72名、2学期平均76名、3学期平均59名、全体で72名(34名)。	A	<b>【課題】</b> ○最後までやり抜く胆力を持った生徒の育成と「学ぶ集団づくり」の推進  <b>【改善】</b> ○多方面で活躍するOBの人材を活用し、社会で通用する人間を育成する。 ○切磋する「学ぶ集団づくり」を推進する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成29年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は基本的には受動的なものなので、それをどれだけ興味深いものにするか。生徒が見ていただけのものから参加するものへの意識の転換を促すことも必要と考える。</li> <li>・グループ学習やディベートによって、主体性が育まれると思うので積極的に活用して欲しい。</li> <li>・アンケート項目で5月から12月で改善が見られているので具体策は効果が出てきているのではないかと考える。</li> <li>・国公立大学合格者数の増加は、熊谷高校に課せられた使命と思われるが、増加に向けた具体的な指導を評価するとともに、さらに進学型単位制の導入でさらなる飛躍を期待する。</li> <li>・進路指導において、生徒たちが自分の将来を自分の責任で決めるということをしっかり理解させてほしい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページが毎日のように更新され、生徒の生き生きとした様子が伝わり素晴らしい。</li> <li>・受検生は少ない情報量で学校を判断しなければならないこともあり、ホームページが充実していると受検生も安心すると思う。</li> <li>・地域の学校等との交流は素晴らしい。学習ボランティアは教える側の高校生にとっても貴重な体験であると考えている。</li> <li>・部活動での中学生との交流がもう少し行われるとありがたい。</li> <li>・地域社会との連携面で、一部の生徒しか関わっていない活動もあるので多くの生徒が参加する機会があるとよい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊高生の良いところは、まさに「三本の矢」文武両道の精神であると考えている。この意識と熊高生活での体験が、人格に良い影響とともに社会での活力になると思う。</li> <li>・自分たちが企画、行動する修学旅行は他の学校ではありえない素晴らしいものであり、それをもっとアピールしてもよいのではないかと考える。</li> <li>・熊高の文化祭はとても楽しく、良い思い出になると思うが、もう少し文化の香りがあるとよいと思う。</li> <li>・人格づくりの教育が現在の学校教育でとても不足しているのではないかと感じる。</li> </ul>	